



福井大学の 特色ある取組

2015年10月

平成28年4月 福井大学が大きい

く変わります！

国立大学は、平成28年度から第3期中期目標期間に入ります。そのスタートに際し、本学の教育研究機能を一層強化し、グローバル化社会において真に活躍できる高度専門職業人を育成するために教育研究組織を大幅に再編します。

1. 国際地域学部を開設

県内の企業・自治体とともに、グローバル化する地域の諸課題の探究と解決にチャレンジ

本学の第4番目の学部として、福井県の地域特性や入口、出口に関する地域の強い要望を踏まえ、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材育成の機能強化を図るとともに、教育の国際化に応じていく本学の牽引役として、新学部を開設します。国際地域学部では、グローバル化する地域社会の具体的で複雑な課題の探求と解決にチャレンジし、グローバル人材と地域再生・活性化人材を一体的なものとして育成します。

地域の創生を担いグローバル化した社会の発展に寄与する人材

興味関心に応じて科目を柔軟に選択履修できる仕組み(アプローチ)を設け、学生の主体的な学びと国際水準での教育を実現

地域創生アプローチ グローバルアプローチ

地域創生の視点 グローバルの視点

世界を知り地域を見つめる新基軸の教育

学びの特色1
グローバルに考える力を身につける
世界と地域を繋ぐ
徹底した英語教育と海外留学を通した異文化理解教育

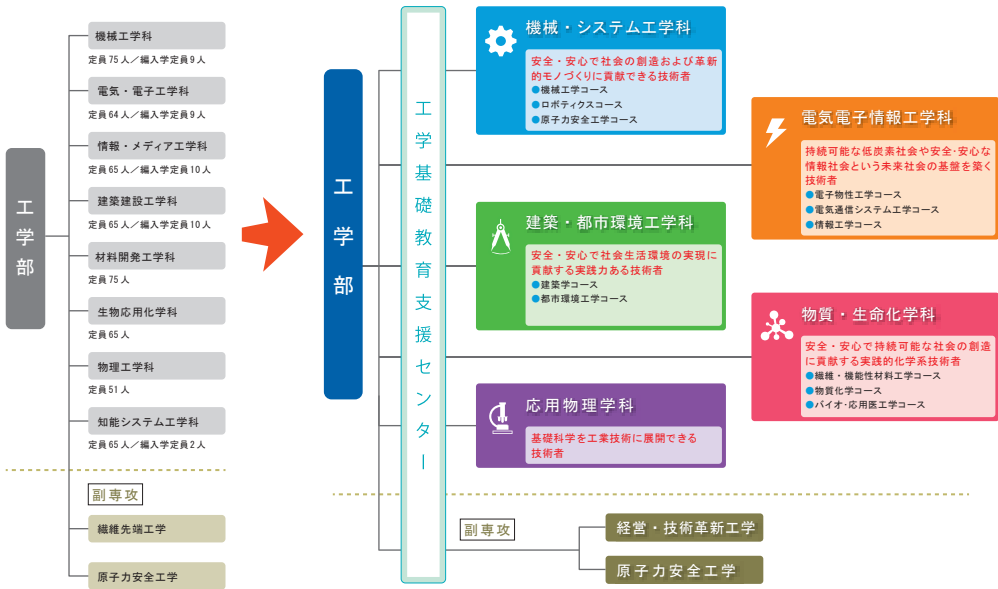
学びの特色2
地域の課題と向き合う4年間
地域の企業・自治体等と連携した地域密着型
課題探求プロジェクト

学びの特色3
文系・理系を超えた多様な学び
医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う
文理融合型教育

2. 工学部8学科を5学科に再編

工学の幅広い分野に対応できる高度専門技術者を育成するため、現行の8学科から5学科へ再編

目指す専門分野の知識を深めるとともに、工学の基礎と関連分野を横断的に学ぶことにより、幅広い視野で地域と世界の発展に貢献できる人材を育成します。



3. 教育地域科学部を教育学部に再編

新しい学校教育を担う教員を養成するため、教育地域科学部を教員養成に特化した教育学部に再編

学校教育の多様な課題に対し、専門性をもって取り組むことのできる人材を育成します。

現在	平成28年度
教育地域科学部	教育学部
学校教育課程 100名	学校教育課程 100名
◆言語教育コース ◆社会系教育コース	◆初等教育コース
◆理数教育コース ◆教育実践科学コース	◆中等教育コース
◆芸術・保健体育教育コース ◆臨床教育科学コース	
◆生活科学教育コース ◆障害児教育コース	
地域科学課程 60名	新設 国際地域学部
募集停止	国際地域学科 60名

福井の地（知）の拠点づくりを目指す

新規採択

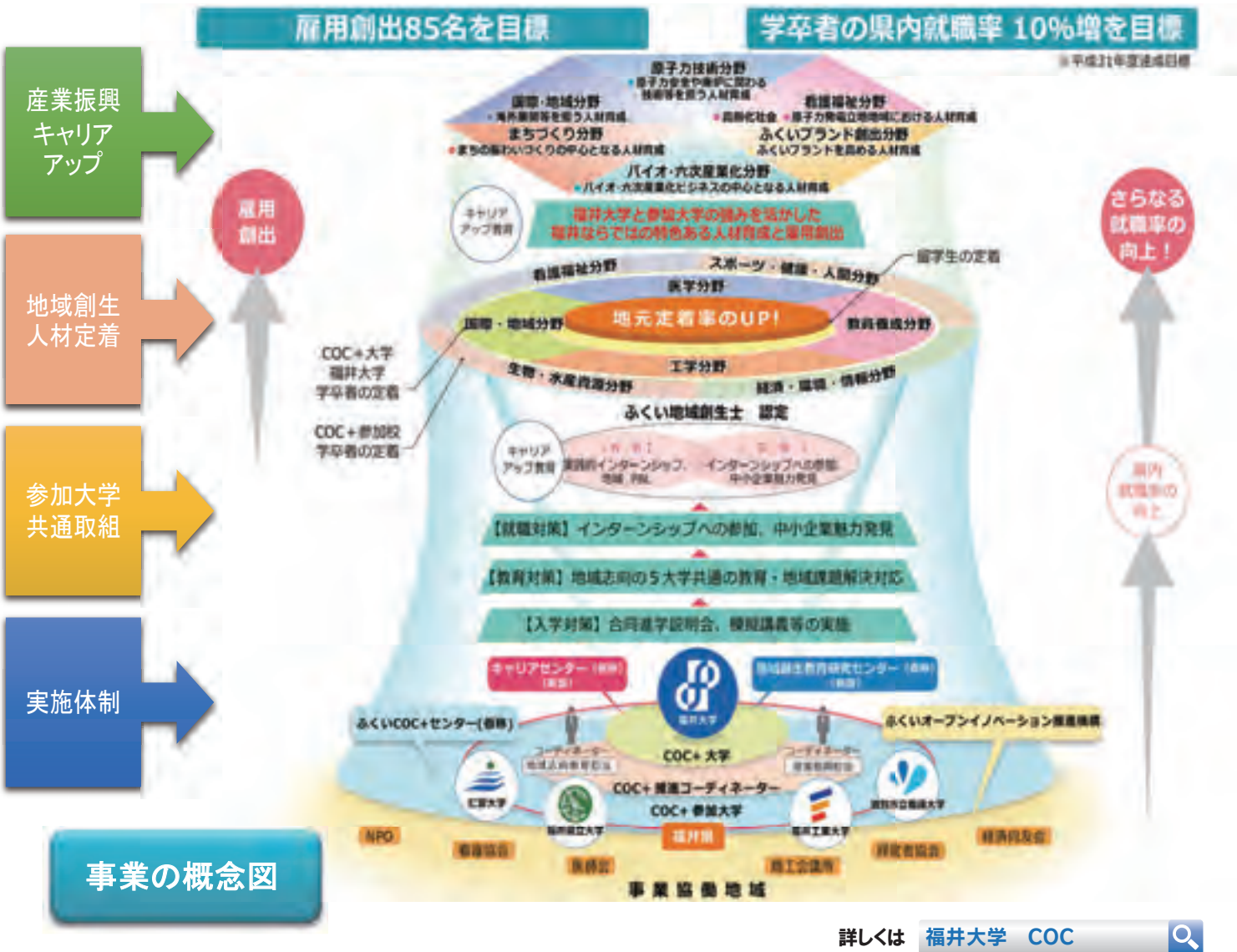
文部科学省事業
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業

平成27年度、福井県内の4年制大学や自治体・企業等と協働し、地域を担う人材を育成することで、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を目指した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されました。

本事業で福井大学は、これまでの教育改革やCOC事業等を通して培ってきた地域重視の教育研究の強み・特色を最大限に活かすとともに、県内全ての大学（福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学）が参加して、福井県及び企業、商工会議所等と連携しながら、様々な取組みを通して、地域の持続的な発展に貢献します。

具体的には、地域志向学生の育成、イノベーション創出人材・グローバル人材の育成、産業振興、「ふくい地域創生士」の認定制度等に取り組めます。その成果として、平成31年度に雇用創出累積85名、学卒者の地元就職率を現状の48%から10%増加させることとしています。



詳しくは 福井大学 COC

点づくりを目指す

文部科学省事業
「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」

地域を志向して人を育み、地域を活かす福井の知の拠点づくり

本学は、福井県唯一の国立大学として、地域の教育、医療、産業、まちづくり等を支える人材の育成や新たな科学的価値の創造を通し、地域に貢献する活動を継続してきました。

こうした活動実績と、さらなる地域振興のための取組計画が認められ、平成25年度の文部科学省事業「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されました。

この事業は、大学と自治体等が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることで、地域再生・活性化の拠点となる大学を形成することを目的としています。福井の地域課題である重点5分野に戦略的に取り組むためCOC推進体制を整備するとともに、地域志向の実践力と創造力を有する学生を育成するため教育カリキュラム等の改革を行い、全学を挙げて「福井の知の拠点づくり」を目指しています。

※ COC = Center of Community

本事業で取り組む重点5分野の主な内容

I 地域再生・活性化の基盤となる「人材育成」

- 教育委員会等と連携した教師の実践力を培う教師教育改革
- 理科に強い教員養成・研修

II 地域産業の持続的な発展に資する「ものづくり・産業振興・技術経営」

- 「ふくい産学官共同研究拠点」によるイノベーション創出

III 進行する少子高齢化と過疎化に対応する「地域医療の向上」

- 医療人育成・派遣システムの構築
 - ・ 「福井県地域医療支援センター」を設置
 - ・ 大学院博士課程「地域総合医療学コース」を設置
- 地域に生きる住民の健康の保持・増進
 - ・ 高齢の地域住民の心の健康に関する健診システム
- 「子どものころ」の諸問題への包括的対応

IV 自然共生社会を実現する「持続可能な社会・環境づくり」

- 持続可能な環境づくり
 - ・ 環境学習講義等による地域での環境活動リーダー育成
- まちづくり
 - ・ 県都のまちづくりや中小都市の都市機能強化策の共同研究

V 安全・安心に資する

「原子力関連分野の人材育成、防災体制の確立」

- 原子力関連施設との連携による原子力人材育成や原子力安全研究
- 緊急被ばく医療に強い救急総合医養成



福井県教育委員会と連携し、地域の理科教育を支える「コア・サイエンス・ティーチャー（CST：地域の核となる優れた理科教員）」の養成に取り組んでいます。



福井市中心市街地にある新栄商店街周辺地区に、青空駐車場を屋外広場として利用した「新栄テラス」をオープン。福井のまちなかでの賑わい創出を探っています。

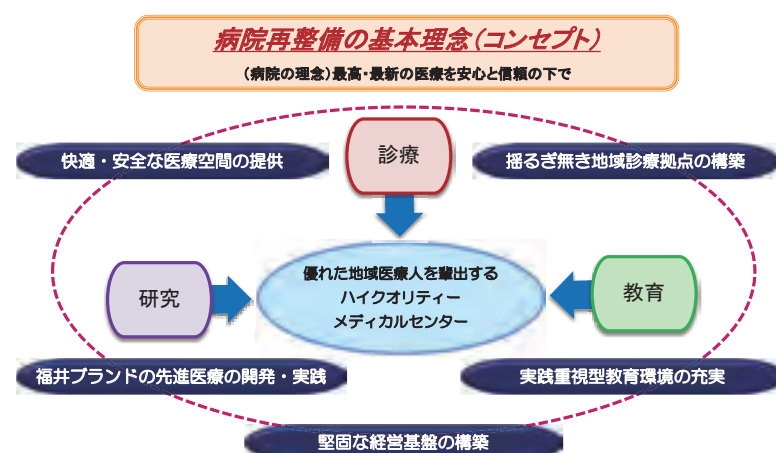
以上の5分野において、県内自治体と24の連携事業の他、地域の課題解決等への取組みを推進しています。

病院再整備第一弾 新病棟稼働

福井大学医学部附属病院は、病院再整備の基本理念「優れた地域医療人を輩出するハイクオリティーメディカルセンター」のもと、平成 22 年から病院再整備事業を開始し、第 1 期事業として、平成 26 年 9 月 16 日に、地上8階、地下1階建て、延べ床面積約 2 万 5000 m²の新病棟が稼働を始めました。

救急部は「**北米型ER救急体制**」を大幅に拡充、手術室は全国屈指の広さを誇り、術中CT装置と、カテーテル治療と外科手術が一つの部屋でできる「**ハイブリッド手術室**」を設置、病棟は3～7階で、内科・外科の境界を取り払った「**臓器・疾患機能別病棟センター**」を全病棟で実現させるなど、チーム医療をさらに推進しています。また、一般個室をはじめ、無菌個室、緩和ケア個室等、全部で168床とし、患者さんの病状やプライバシーに配慮しています。

現在は病院再整備の第Ⅱ期工事に着工し、平成30年度の完了を目標に既存棟の改修、外来スペースの拡充、中央採血室や中央処置室ゾーンの集約、患者さんのご家族が休憩や仮眠をとれる家族控室、患者総合支援センターの設置などを計画しています。



新病棟の特徴

1. 救急医療体制を大幅に拡充

北米E R型救急(1次救急から3次救急までのすべての救急患者の方を受入)に対応するため、救急搬送口と救急外来入口を分け、効率的な動線を確認しました。救急搬送口に入って直ぐに除染室を設け、広い処置室には救急部専用のCT装置を設置し、迅速な診断が可能となります。



救急部専用CT装置

2. 「最高・最新の医療」を提供

血管撮影装置と手術寝台を組み合わせたハイブリッド手術室を始めとする先端医療機器や設備を導入、また、手術部、集中治療部、滅菌管理部を効率的な動線で結び、人的、物的な移動を最小限にすることで、患者さんの負担を軽減することができます。



ハイブリッド手術室

3. 集学的なチーム医療を展開

全国では少ない「臓器・疾患機能別病棟センター」を全病棟で実現しています。

集学的診療体制による治療効果の向上を目的とし、病棟フロアごとにセンター化することで、診断から入院、治療、退院までを切れ目なく完結させ、患者さん中心の医療を展開することができます。

[illegible]

4. 快適で機能的な病室と環境・アメニティエリア

○1階のアメニティエリアは、売店、カフェを設置し、来院された方に快適にお過ごしいただくことができます。また災害時にはトリアージ（災害時に患者さんの重篤度に応じ治療の優先度や処理の方法について診断を行う作業）を行うスペースとして活用するため、壁に酸素の供給、吸引用の設備を設置しています。



売店・カフェを設置。災害時には
トリアージスペースとして活用

○入院病棟は、個室を既存棟 75 床から 168 床に大幅に拡大。無菌病室、緩和個室を増やし、様々なニーズに対応することができます。また、各病棟に談話室やデイコーナーを設け、患者さんがご家族とくつろぐことができます。



個室Dタイプ
(トイレ・シャワーユニット有)



病棟 EV 前の談話室

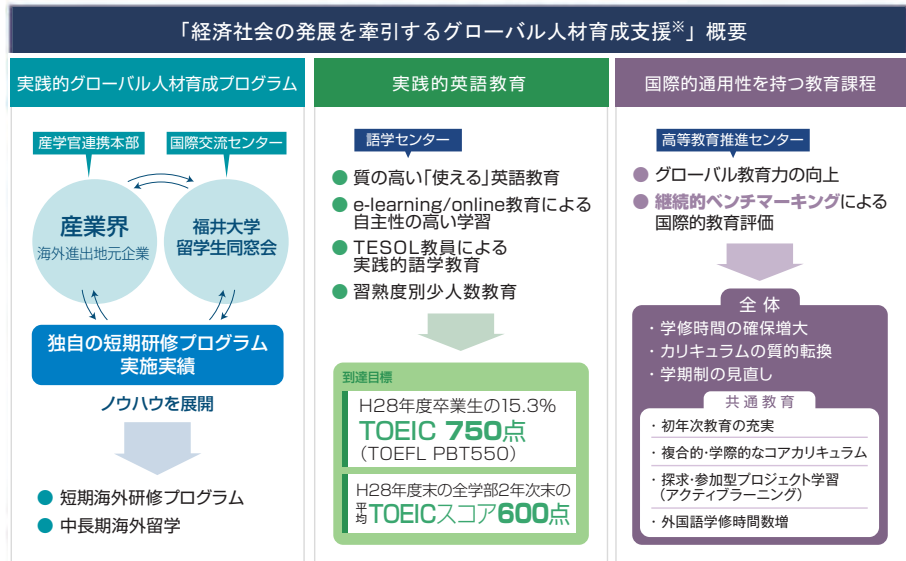


グローバル人材育成

福井から世界へ

福井大学では長期目標として、「21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる優れた人材の育成」を掲げています。平成24年度に**東海北陸地区の国立大学で唯一採択された、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援※」**では、工学部・工学研究科を中心に「**世界的な視点をもった高度専門職業人の育成**」を目指し、様々な取組を進めています。

※「グローバル人材育成推進事業(平成24年度採択)」を組み替えたもの。



これからの地方に必要なグローバル人材育成モデルの構築と実行を目指して

「語学センター」による実践的英語教育

- ・質の高い「使える英語」の修得のため、TESOL等を専門とした英語教育のプロフェッショナルによる実践的な英語専門教育を実施しています。
※TESOL(英語を母国語としない人たち向けの英語教授法)
- ・交流スペース「Global Hub」には、留学経験豊富な学生スタッフや留学生が集まり、**メディアの活用や交流イベントへの参加を通して国際感覚を養う**ことができます。また、国内トップクラスの言語開発センター(Language Development Center: LDC)には、**e-learningシステムや語学学習のための本・DVD等の教材を多数備え、充実した自主学習環境を提供**しています。



英語インストラクターによる英語授業風景



スピーキング練習が可能な遮音室の個別学習ブース(LDC)



Global Hubでの異文化交流

詳しくは [福井大学 語学センター](#)

国際的評価に基づいたカリキュラム改革

- ・語学教育カリキュラム改革として、平成25年度から工学部新入生に対し、また平成26年度からは教育地域科学部新入生に対し、週2回の英語授業を実施しています。加えて、TOEIC及び語彙テストを実施し、習熟度別少人数クラス編成による教育を実施しています。
- ・平成25年度末に実施した工学部1年次生全員を対象としたTOEICでは、入学時と比較して平均スコアが50点以上上昇する等、高い成果を挙げています。
- ・教育の国際的質保証や教員のグローバル教育力向上、職員の学生支援力量向上の観点から、海外の先進大学の視察・ベンチマークを実施しました。全学FD・SDシンポジウムの開催や海外の先進大学から講師を招聘して外部評価を行い、カリキュラムや評価の改革、学習時間の確保や学期制の見直しなど**国際的通用性を持つ教育課程の実現**を目指します。



海外先進大視察風景



米ブラウン大学FDセンター長を招聘

実践的グローバル人材育成プログラム

- ・学年や学習段階、各学生のニーズに合わせて留学できるよう、目的や内容に応じて6つの型の短期海外研修プログラムを実施しています。留学を希望する学生に対しては、海外渡航経験がない学生でも、不安や問題なく研修に参加できるよう、事前の十分な情報提供、オリエンテーションの実施、手続きの補助、現地でのサポートを行い、安全で学びの大きい留学の実現を支援します。

【語学研修型】

現地大学または附属語学学校にて、語学力の向上を目指す研修です。学部1年生から博士後期課程の学生まで、どなたでも参加可能です。平成27年度は、英語、ドイツ語、タイ語の研修を予定しています。

【文化体験・交流型】

文化・歴史遺産の訪問、文化体験、学生交流等を通し、グローバルな環境に慣れ理解を深めることを目的とした研修です。異文化を身近なものとして捉えられるよう、現地学生との交流を中心とした様々な活動が企画されています。

【グローバル教養型】

特定地域の社会文化に関する講義やフィールドワーク等への参加を通して、グローバル人材としての教養を高めます。座学よりも課外での活動が多く、自己学習力・問題解決能力の向上が期待できます。

【専門分野型】

専門分野の講義や実験への参加、関連企業への訪問等を通して専門分野の理解を深めます。専門分野の知識をある程度有する学生が多く参加しています。

【実践・インターンシップ型】

就業体験などの実践を通してGlobal IMAGINEER※としての専門性や創造性を高めることを目的とした研修です。大学で習得した専門的知識・能力を実践で活用するべく、企業インターンシップ等を行います。

【研究・発表型】

現地大学生との共同研究、学会参加や発表などを通してGlobal IMAGINEER※としての専門性や創造性を主体的に高めることを目的としています。

※福井大学がグローバル人材として定義する『歴史や文化が異なる地域においても、世界の人々と協働して生き生きとした暮らしづくりに貢献できる高い専門能力と創造力・実践力を有した高度専門職業人』



語学研修型



文化体験・交流型



グローバル教養型



専門分野型



実践・インターンシップ型



研究・発表型

平成26年度短期海外研修プログラム(短期)

平成26年度は**43プログラム**を実施し、計**233名**の学生が留学を行いました。

＜主な短期海外研修プログラム実施大学＞

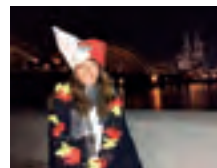
ポートランド州立大学(アメリカ)、オカナガン大学(カナダ)、サザンクロス大学(オーストラリア)、ワイカト大学(ニュージーランド)、バーミンガム市立大学(イギリス)、ハンブルク大学(ドイツ)、ノイチャテル大学(スイス)、東亜大学校(韓国)、上海理工大学(中国)、中国医薬大学(台湾)、南洋理工大学(シンガポール)、国立フィリピン大学物理学研究所(フィリピン)、タマサート大学(タイ)、アイルラング大学(インドネシア)、マラヤ大学(マレーシア)、ハノイ工科大学(ベトナム)ほか

平成26年度短期海外研修プログラム(中期)・交換留学



台湾 国立高雄大学
吉田 清孝
工学部4年
平成26年9月～12月
(3ヶ月)

以前より、海外に留学したいという希望を持っていたこともあり、光の観測方法の一つであるフォトルミネセンス法の研究を行っている国立高雄大学への留学を決めました。国立高雄大学の研究室では、現地学生とともに実験を行いながら、問題点や実験方法を議論しました。5階建ての図書館が埋まるほど熱心に勉強する現地学生の姿に影響を受けて、私も3ヶ月という限られた留学期間中、積極的に実験に取り組みました。得られた知識や実験結果は、論文作成に活かす予定です。



ドイツ ハンブルク大学
三上 結以
教育地域科学部3年
平成26年10月～
平成27年3月(6ヶ月)

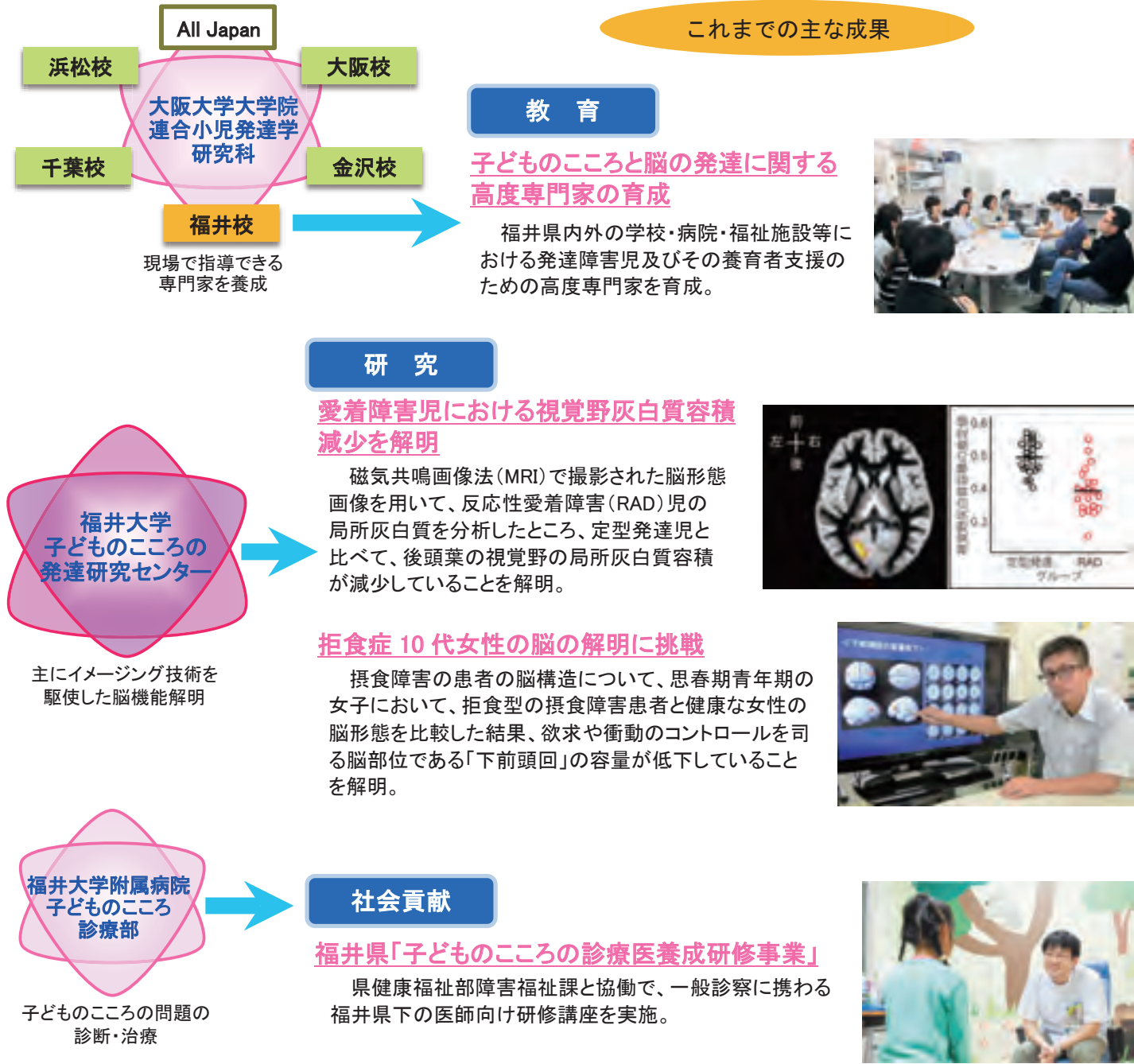
私は、第二外国語として勉強していたドイツ語をさらに学ぶため、ハンブルク大学に交換留学しました。大学では、ドイツ語と英語の授業に参加したほか、授業の空き時間には、「タンデム」という制度を利用して、日本語を勉強したいドイツ人とお互いの言語を教え合ったり、日本学科の授業のサポートもしました。元々ドイツの多文化共生に興味があったのですが、ドイツ語が十分に話せない私に対しても優しいドイツ人と生活をともにすることで、さらに理解が深まりました。

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障害を含むこころの問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学では、**子どものこころの発達研究センター**において、イメージング技術を駆使した脳機能の解明等に取り組むとともに、**附属病院子どものこころ診療部**では、子どものこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、子どもを取り巻く養育者に目を向けた取り組みを実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学**の5大学連合による、学際的見地に立脚した**大学院連合小児発達学研究科**では、All Japan の教育研究体制で、子どものこころの諸問題の解明に取り組んでいます。



教員養成改革

福井大学では、教育に携わる高度専門職業人として活躍できる人材の育成を積極的に推進しています。

そのため、従来の教員養成を抜本的に改革し、「**学校拠点方式**」と呼ばれる、地域の学校を拠点にした教師教育の革新に向けた取り組みを進めています。

この取り組みは国からも認められ、中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(H24.8.28)」で、**教員養成のモデルとして紹介**されています。

さらに、附属学校園を先端的教師教育研究の拠点と位置づけ、教育の質の高次化とそれに対応できる教員の養成のため、学部・研究科・附属学校園が協働して現場指導に取り組む、より一層緊密に連携した教育研究体制の構築を目指しています。

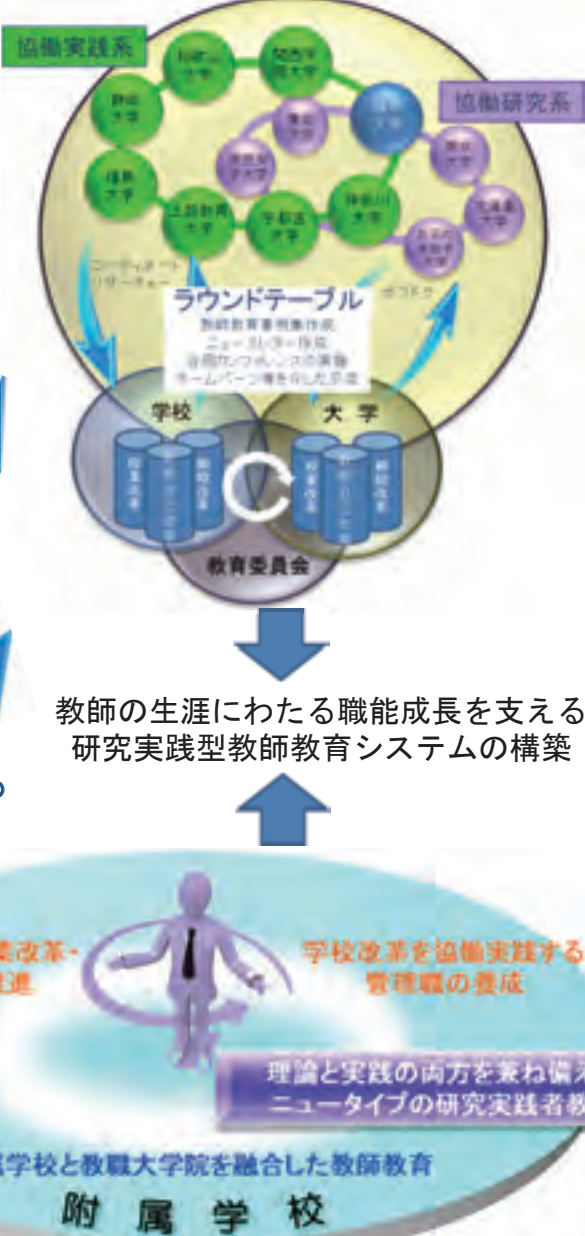
「学校拠点方式」：学校現場が大学院

大学教員が学校に赴き、学校の抱える課題を学校と大学とが協働で取り組む教師教育を「学校拠点方式」と呼びます。



附属4校園を統合し、12年間の一貫教育を実現

学校を大学院の学び舎とした教師教育の全国展開 (教師教育改革コラボレーション)



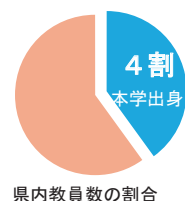
教育

人づくりを通じた貢献

(1) 地域を支える優れた人材の輩出

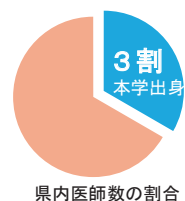
■教育地域科学部 一地域の次世代を育てる教員の養成一

○福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,631人
うち本学の卒業生数 3,105人



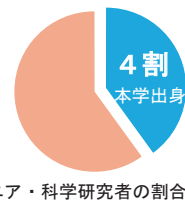
■医学部 一地域医療を担う医療人の養成一

○福井県の医師数 1,975人
うち本学の卒業生数 567人
○福井県の看護師・保健師・助産師数 7,446人
うち本学の卒業生数 267人
県内で唯一助産師を養成



■工学部 一地域産業を創造する技術者の養成一

○福井県のエンジニア、科学研究者 11,590人
うち本学の卒業生数 5,027人



※福井県のデータは、教：平成26年度学校基本調査、医：平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：平成24年看護関係統計資料集、工：平成22年国勢調査より。
福井大学卒業生のデータは、平成25年度時点の同窓会データより。

(2) 実践力重視の教員養成教育

■地域と協同する実践的教員養成プロジェクト

○学部教育

「ライフパートナー事業」

学生が、不登校児童生徒の学校、家庭を訪問し、「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助
一緒に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動



ライフパートナー事業報告会

「探求ネットワーク事業」

子どもたちと共に人形劇、気球・料理作り、まちかど調査隊などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養う



探求ネットワーク事業

「教育実践研究」

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクト。1年次から附属学校園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動



教育実践研究（教育実習）

○大学院教育

「学校拠点方式」：学校現場が大学院
小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に

(3) 高度な臨床能力を備え 地域社会のニーズに対応した 優れた指導的医療人の育成

■革新的画像医学教育：高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

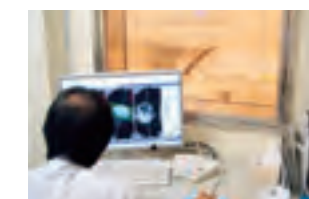
人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成
さらに、遺体専用CTとMRIとを有するAiセンターでは、死後画像を活用した先進医学教育、解剖所見との対比や画像解析を通じた終末期の臨床医学研究や医療安全評価、警察の司法捜査や死因究明などにも貢献



医学画像教育用システムを活用する臨床実習

■看護：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる独自カリキュラムを実施。県内で唯一助産師を育成
大学院附属の地域医療高度化教育研究センターでは、社会のニーズに対応した「慢性呼吸器疾患看護」や「手術看護」の認定看護師養成や学び直しの取組を実施
大学院修士課程に、平成26年4月「災害看護専門看護師教育課程」を設置



MRIによる撮影



看護実習

■全国初の大学院「地域総合医療学コース」の設置

平成25年4月に大学院医学系研究科「統合先進医学専攻」に全国初となる「地域総合医療学コース」を設置し、地域に貢献できる臨床研究能力や教育的指導力を備え、地域医療をリードする、質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医等を養成

(4) 夢を形にする技術者 IMAGINEER の育成

■創造力と実現力を育む創成教育

学生の自主性や創造性、知識・技能を総合して問題解決する実践的能力の育成を目的とし、学科・学年の枠を越えた学生グループで各自の専門分野の知識も活用して学際的・具体的問題に取り組む
・知能ロボット・プロジェクト ・アプリ開発プロジェクト
・エコロジー&アメニティ・プロジェクト
・フォーミュラカー製作プロジェクト



知能ロボットプロジェクト

■産業現場に即応する実践道場

業界の幅広い分野からの課題解決型の実践現場の提供とエキスパートの教育参加によって、広い視野をもち、自ら考え行動していく自律型産業人材の育成を目指す



フォーミュラカー製作プロジェクト

■繊維系大学連合による次世代繊維・ファイバー

工学分野の研究および人材育成

大学院に「繊維・ファイバー工学分野」の専攻を有する信州大学、福井大学、京都工芸繊維大学が教育研究資源を連携・融合し、各大学の強みを活かし、3大学で繊維の世界をリードする繊維系大学連合の構築を目指す
＜本学の強み＞
・電子線照射技術など繊維機能加工に関する研究が可能
・ナノ繊維化技術や繊維の医療等への展開にも強み
・地元繊維産業の現場に直結した研究や教育

■採択された文部科学省等の公募型教育プログラム

- 学部教育
 - ・夢を形にする技術者育成プログラム（H20・GP）
 - ・学力力涵養の礎となる初年次教育の充実（H21・GP）
- 大学院教育
 - ・派遣型高度人材育成協同プラン（博士前期）（H18）
 - ・創発型実践大学院工学教育（博士前期）（H18）
 - ・学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育（博士前期）（H19・GP）
 - ・産業現場に即応する実践道場（博士後期）（H22）
 - ・ポストドクター・インターンシップ推進事業（博士後期）（H23）

※GP(Good Practice)・・・文部科学省が選ぶ優れた取組

研究

科学技術の発展と
地域社会への貢献

(1) 世界／全国レベルの研究拠点をめざす

■国際的画像医学研究教育拠点

高エネルギー医学研究センター

サイクロトロン及びポジトロン断層撮影（PET）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進（米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）



PET薬剤（放射性薬剤）製造用「サイクロトロン」

主な取組内容

体内における遺伝子やタンパク質などの分子を生体内で画像化する「分子イメージング」は、様々な病態の高度な診断を可能にすると考えられています。特に定量性に優れたポジトロンCT（PET）は、ライフサイエンスの基礎研究、生体機能や病因の解明、臨床診断、再生医療、テーラーメイド医療などの医学研究、さらには創薬研究等への応用が期待されています。当センターでは、PET分子イメージングの包括的な研究を推進することを目指し、新規PET薬剤および関連機材等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いる基礎研究から、PETを用いた診断・治療に関する臨床研究まで幅広い研究を行っています。脳機能研究では、脳PETに加え、機能的MRI（fMRI）を用いて様々な生理機能を明らかにします。また、画像医学研究を担える人材を育成するための医学、薬学、工学など様々な学問分野における幅広い教育にも力をいれています。平成23年度にはパナソニック医工学共同研究部門が設置され、医工連携による産学官共同研究を実践しています。

詳しくは [福井大学](#) [高エネ](#) 

■遠赤外領域研究の世界的拠点

遠赤外領域開発研究センター

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進（海外22機関と国際共同研究を展開）



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

主な取組内容

遠赤外領域開発研究センターでは、電波と光の中間に位置し、電磁波の「未踏領域」と言われている遠赤外（テラヘルツ）領域の総合的な開発・研究を行っています。独自に開発した高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」をさらに高度化する研究開発とともに、高出力遠赤外光源を用いて初めて可能になる遠赤外領域の先進的・先導的研究を行っています。さらにジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発や、レーザー光を利用した高いピーク強度のパルステラヘルツ波技術と分光技術を組み合わせたテラヘルツ科学の研究も推進しています。

これらの研究を推進する上で、国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開し、遠赤外（テラヘルツ）領域研究の世界的な拠点として活動しています。



高周波電子スピンエコー測定装置



遠赤外技術に関する国際会議（2014年に福井大学で開催）

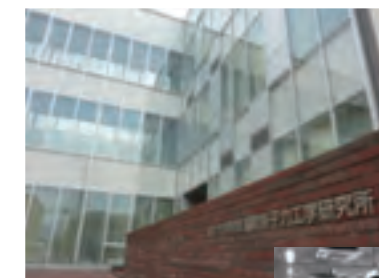
詳しくは [福井大学](#) [遠赤](#) 

(2) 原子力の基礎基盤から原子力防災を基軸にした地域への貢献

■世界トップレベルの原子力人材育成と研究開発

附属国際原子力工学研究所

世界トップレベルの特色ある原子力人材育成及び研究開発を行い、環境と調和した持続的なエネルギー供給基盤を持つ世界の構築に貢献することを目的として、平成21年4月設置、平成24年3月敦賀市に移転。福井県嶺南地域の研究機関や民間企業等との共同・協力、地域に開かれた研究所として、講演会、セミナー等を通じた地域貢献を推進



研究所外観



実験室

東電福島第一原子力発電所事故後の安全への主な取組み

○原子力の安全性向上、防災危機管理の向上、地震・津波に強い原子力システム、適切かつ迅速な放射線防護対策等の研究や国内外の原子力の安全・防災に係る人材育成を進めるため、平成24年4月「原子力防災・危機管理部門」を設置。平成26年4月に廃止措置に係る研究・人材育成をさらに進めるため「原子炉構造システム部門」を「原子炉構造システム・廃止措置部門」に改組



組織図

○本学が中心となり西日本の大学や研究機関が連携し、日本原子力研究開発機構（JAEA）、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）、国際廃炉研究開発機構（IRID）、東京電力との情報交換を密にして、現場のニーズを踏まえた「廃止措置技術」、「燃料デブリ分析」及び「廃炉技術開発」に関する基盤研究と人材育成を実施



○地域の原子力防災力の強化を目指し、防災教育による人材育成、防災計画を検証する技術開発、緊急時の活動を支援する体制構築などを周辺自治体等地域と連携し推進



地域の原子力防災

詳しくは [福井大学](#) [原子力](#) 

研究

科学技術の発展と
地域社会への貢献

(3) 研究推進体制・機能の充実強化

■産学官連携本部・URAオフィス

○地域に根づくイノベーションエコシステムの整備

(目標) 地域企業に「技術開発」と「人材育成」に関するソリューションを提供し、その連携を通じて大学における多様かつ持続的な「知」の創出に貢献する。

【ふくい方式の産学官連携活動】

産学官でイノベーションをハイブリッド推進!

段階	内容	特徴
PLAN	地域の産業力強化戦略と先端・先進の「知」との融合による新しい地域共同研究プラン	人“財”の共有、大学を“現場”とする作戦会議
DO	産業界を巻き込んでイノベーション創造チームを構成し、プロジェクト研究を実施	責任企業の設定、製品化・事業化まで盛り込んだロードマップ作成
CHECK	研究成果を吟味して事業化への道筋を確認	企業内サテライト研究エリア、大学内共同研究拠点設定などリソースの相互提供
ACTION	企業が利活用しやすい形への技術の洗練、事業化の支援、波及効果の明確化	学官が並走して事業化支援(省庁間橋渡し等)、官学協働で事業化までフォロー

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働!

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設「オープンR&Dファシリティ」を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進する

イメージを「見える化」する試作!

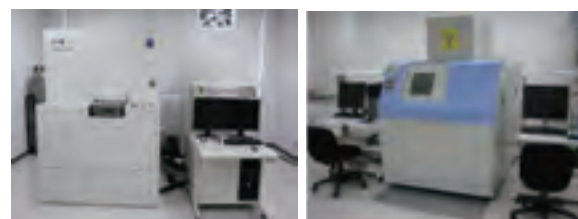
「インキュベーションラボファクトリー (ILF)」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作し、市場性を問う。URA や地域人材の積極的関与を含めた広がりのある「見える化」を推進、産業界への橋渡しへ

一心に「知」を創出に取り組むための組織づくり!

「ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーション (URA)」

研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを行い、大学における研究の卓越性を追求、社会がわくわくする「知」の創出へ
文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業採択(平成24年度:全国で10大学)



企業と共同利用できる最先端計測機器



オープンR&Dファシリティに設置した最先端計測機器



試作品の例 (a) 冬虫夏草抽出品 (b) 油管理計 (c) リチウムイオン電池



URA 主催によるワークショップの議論風景

詳しくは [福井大学 産学官](#) [福井大学 URA](#)

(4) 科学技術の発展と地域社会への貢献

研究

科学技術の発展と
地域社会への貢献

■本学の特色ある研究の取組

○世界に通用する研究成果を創出し科学技術の発展に寄与することを目的としてさまざまな研究に取り組み
その取組は地域社会への貢献につながるものとして外部からも高い評価を獲得

特色ある研究の取組事例

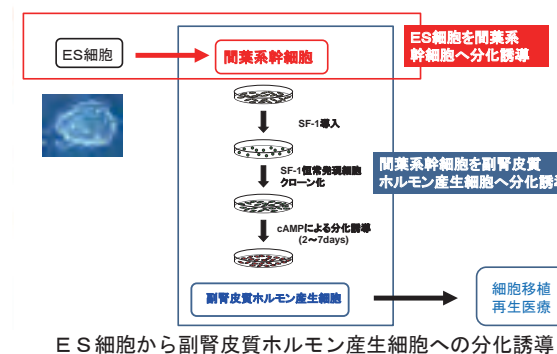
■ 再生医療研究で患者の負担を減らす新たな治療法の開発を目指す

骨髄由来の間葉系幹細胞および万能細胞ES細胞からステロイドホルモンを作り出す細胞への分化誘導法の開発に成功

ステロイドホルモンは副腎や性腺(卵巣や精巣)などで合成され、正常な糖・電解質の代謝や生殖機能の維持に不可欠なホルモンです。不足するとステロイドホルモン欠乏症となり、重篤な症状を示すため、注射や錠剤投与によるホルモン補充療法が行われてきたが、治療を生涯にわたり継続する必要があるため、患者にとって大きな負担となっています。この研究成果は、幹細胞を用いてホルモン産生細胞を再生することで、新たな治療法の開発につながると期待されています。



第10回福井県科学学術大賞(H27.2.5)

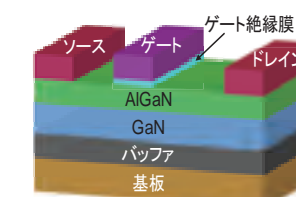


第10回福井県科学学術大賞(福井県版ミニ・ノーベル賞)受賞式

特色ある研究の取組事例

■ 窒化物半導体素子の低損失化と電力変換回路への応用で低炭素・省エネルギー社会の実現を目指す

低炭素・省エネルギー社会の実現に向け、本学は窒化物半導体材料・デバイスの分野において、高速・高耐圧で動作するトランジスタの性能向上と実用性実証を世界に先駆けて行い、注目を集めています。本学には、窒化物半導体を高品質で成長させる技術、微細なデバイス構造の作製プロセス技術、結晶とデバイスを高精度で評価する技術、大規模数値計算で性能予測する技術などの要素技術の蓄積があります。本研究では、これらの技術を集積し、窒化物半導体を用いたパワーデバイスの開発を加速させ、家電機器やAV機器、鉄道・自動車などのインバータ回路に実用化することにより、機器の小型・軽量化と電気エネルギーの大幅な効率化実現を目指します。



新構造トランジスタ

インバータ回路に適用



医療

すべては“患者中心の医療”のために

（１）最高・最新の医療を安心と信頼の下で

■県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供
「医療の砦」として最重症疾患患者を受入

■大学病院初の北米型（ER）救急体制
一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を、365日24時間体制で実践

■パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と
「看護総合力育成プログラム」の実現
全国初の「二人三脚方式」の病棟看護方式
新人看護師に対して育成チームによる支援体制

詳しくは [福井大学 PNS](#)

■総合周産期母子医療センター
母胎・胎児集中治療管理室（MFICU）
新生児集中治療管理室（NICU）
新生児回復期治療室（GCU）
産科・小児科医師の連携により、リスクの高い妊婦や新生児を受入

■手術用ロボット「ダヴィンチSi」の導入
手術器具は人の手以上に複雑な動作が可能のため、より安全で正確な手術が可能。開腹せずに済み手術時間も短く、患者さんの体の負担を軽減できるのがメリット。
厳しい院内基準の下で運用し、平成25年12月から前立腺がん手術を開始。今後他の疾患にも順次、用途を拡大。

■先端医療画像センター
最新の3テスラMRI装置やPET-CT装置を運用。
3テスラMRIは、X線被ばくがなく、造影剤を使用せずに血管を細かくきれいに画像にすることが可能。
PET-CTは、微細病変を発見でき、がんの早期発見・早期治療につながる。また、従来のPETより検査時間が短く、患者さんの負担を軽減できるのがメリット。

詳しくは [福井大学 病院](#)



全ての患者を受入
“地域医療の砦”として迅速に対応



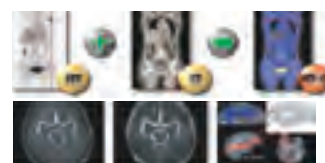
2人一組のチームで看護ケアを行う



新生児集中治療管理室（NICU）



最新鋭機「ダヴィンチSi」の操作



専門ドック「先端医療があなたの命を守る」

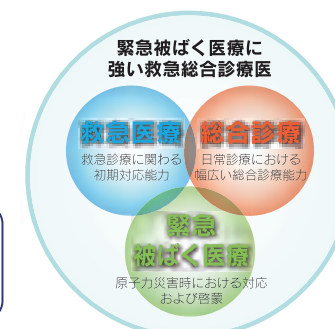
（２）地域医療の担い手の育成

■（独）科学技術振興機構「地域再生人材創出拠点の形成」採択
「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」プログラム
…地域のニーズに即した医療人の育成

- ・日常のあらゆる疾患を診療できる「総合医」
- ・救急診療に関わる初期対応能力を備えた「ER型救急医」
- ・万一の「緊急被ばく医療」への初期対応力

本プログラムの受講生が、東日本大震災時に現地で力を発揮し高い評価を獲得。
また、実施プロジェクトの事後評価では総合評価で最高ランクの「S」評価を獲得。

詳しくは [福井大学 緊急被ばく](#)



■福井メディカルシミュレーションセンター
県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化
・地域医療を志す医学生、看護学生、研修医、新人看護師の実技訓練
・救急対応の標準化
・県内医療従事者の生涯教育の充実



福井メディカルシミュレーションセンター

■医師派遣
福井県内唯一の医学部として、県内を中心に157の医療機関に医師を派遣

■僻地医療を遠隔診断により支援
TV会議システム、遠隔病理診断及び遠隔画像診断による支援



TV会議システムを利用した医療支援

■地域医療を支える人材の育成
県内で働く医師確保を目的とした、福井大学医学部推薦入試枠「福井健康推進枠」から、平成27年3月に初めての卒業生4人を輩出

■産婦人科医が不足している地域の分娩を支援
分娩できる病院のない自治体（勝山市・大野市）の支援のため設備を整備し分娩を受入

■地域の医師は、地域が育て、地域が守る
和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成



在宅診療を行う医師と研修医

社会貢献

(1) 国際社会への貢献

■バングラデシュ パイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

○飲料水の確保が難しいバングラデシュのパイガサ地域において、住民主体による TSS（太陽熱淡水化装置）を利用した水環境および保健環境改善モデルを確立。JICA 草の根技術協力事業として周辺住民の生活環境の向上に貢献することを目指す



バングラデシュ クルナ管区の保健衛生工学局（DPHE）パイガサ事務所での会談



健康調査の様子



小学校での TSS の説明

(2) 災害支援

■災害ボランティア活動支援センター

○学生のボランティア意思が実際の災害時の活躍につながる仕組みづくりを行うと同時に、活動に必要な様々な研修のための場を提供することにより、災害ボランティア活動を支援

○NPO 法人等が行うボランティアへの学生参加を支援



災害ボランティア研修会における三角巾を使用した応急手当の実習

■東日本大震災復興支援

○震災直後から医師派遣を継続的に実施

○被災者の心のケア

○被災地支援の経験を受け止め主体的に動ける学生の育成の一環として共通教育科目

「東日本大震災をどう受け止めるか」を開講



災害看護についての授業



被災地支援について議論する学生

詳しくは [福井大学 災害](#)

(3) 教育・研究の成果を地域社会へ

■福井大学きてみてフェア

大学の教育や研究について、体験しながら学ぶコーナーや学生の授業発表などを通して、広く地域の方々に紹介



サッカーロボットの実演



マイクロフローの工作

■公開講座

教育・研究・診療の成果を活かした学術的・文化的講座や、地域住民のためのブラッシュアップ及びキャリアアップのための講座など、多彩な講座の開講



親子で電子工作体験



福井の城下町探訪ー
～乗谷を歩く～

詳しくは [福井大学 地域貢献推進センター](#)

■展示企画

学生、教員、公共施設との連携のもと、図書館や病院内施設における所蔵資料などの展示公開



「グリフィスと福井」
増補改訂版 出版記念展



「日本一短い手紙」と
「かまぼこ板の絵」の
物語コラボ展

詳しくは [福井大学 図書館](#)

■生涯学習市民開放プログラム

市民の方々に授業を開放して生涯学習の機会を提供するとともに、地域社会と大学の連携を推進

詳しくは [福井大学 共通教育センター](#)



修了証書授与の様子

■語学学習環境

英語を学習したい市民の方々に語学自主学習ができる言語開発センター（LDC）を開放

詳しくは [福井大学 LDC](#)

学生の輝く姿

地域に根付く学生の活動

■永平寺消防団大学生防災サポーター

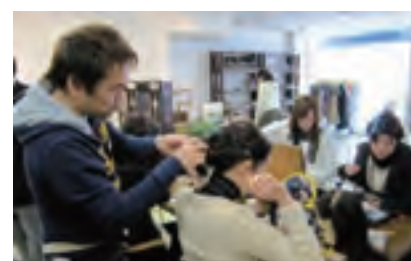
医学部学生が「機能別消防団員」として入団し、様々な地域防災計画に基づく訓練等に参加。大学で学んだ専門知識を生かして、大規模災害時の避難所等で応急救護での活動が期待されている



永平寺消防団救命講習会

■たわら屋

地元の田原町商店街と学生が連携して、空き店舗を利用した活動拠点を作り、商店街の活性化のために様々な企画を共同で実施。活気を取り戻しつつあると、全国紙にも取り上げられ、注目されている取組



学生目線で人が集まるイベントを企画（たわら屋にて）

■Fukui Play-Studio 遊房

子どもが持つ「素」のココロを大切にし、子どもたちの遊び空間を提供することで生きる力を育む手助けをする。どろんこ祭りやダンボールハウス作りなどのイベント企画を通して子どもたちと一緒に学び、感じ取ることを目的に活動を展開



どろんこ祭り

躍動する学生たち

■空手世界初制覇

教育地域科学部 学校教育課程の伊藤祥太さんが、「和道会空手道ワールドカップ2015」で日本代表として出場し世界初制覇

■スポーツクライミング全国優勝

教育地域科学部 地域科学課程の廣重幸紀さんが、「スポーツクライミング日本学生個人選手権大会」で、参加者で唯一全課題を完登し優勝



スポーツクライミング優勝の廣重さん

■女子ラグビー部発足

6月に女子7人制のラグビー部を発足。
2018年の福井国体の、県選抜として出場を目指す



試合の様子



世界制覇した伊藤さん

就職率8連覇

学生の輝く姿

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング 2015」において、本学は複数学部を有する国立大学において8年連続 1位となりました。卒業生 1,000人以上の国公立大学においても2位となり、高い就職率を保持しています。

教育地域科学部

医学部

工学部

92.2%

97.2%

96.4%

就職率ランキング

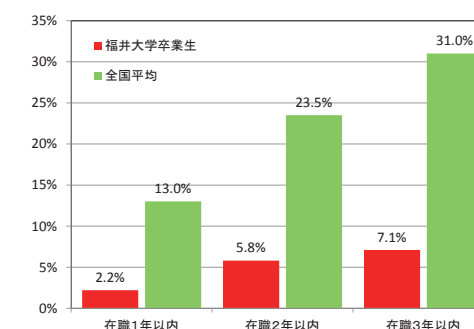
複数学部を有する国立大学

年度	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2015	福井大	96.1	名古屋工大	94.1	群馬大	94.0
2014	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2012	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2009	福井大	97.2	長岡技科大	95.9	九州工大	95.8
2008	福井大	95.3	九州工大	94.6	豊橋技科大	91.9

大学通信調査の「全国大学実就職率ランキング」就職率=就職者数÷(卒業生数-進学者数)

低い離職率！

在職期間3年以内の離職率(7.1%)は全国平均(31.0%)を大幅に下回っており、企業からその高い定着率が評価されています。



参考：福井大学の教育と卒業生についてのアンケート調査 2013(平成 25 年 11 月実施)及び「新規卒就職者の在職期間別離職率の推移(厚生労働省 HP)」

福井大学が就職に強い3つの理由

1.積極的なキャリア形成支援

- ・地域と密着した人間力育成事業の実施
- ・日々進歩・変化する医療現場への適応能力育成
- ・夢をかたちにする技術者育成の徹底

2.学生を支える充実した就職支援体制

- ・就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
- ・本学独自のキャリアサポートシステムの運用
- ・就職活動の拠点サテライトキャンパスの設置

3.きめ細かな就職支援活動の実施

- ・充実した就職支援講座の開講
- B・OGとの懇談会、学内合同・個別企業説明会 等

安倍晋三内閣総理大臣と懇談



本学の学生・卒業生が「地元福井への就職について」をテーマに懇談(H27.4.11)



就職支援室キャリアカウンセラーによる就職相談



毎週開講される就職ガイダンス

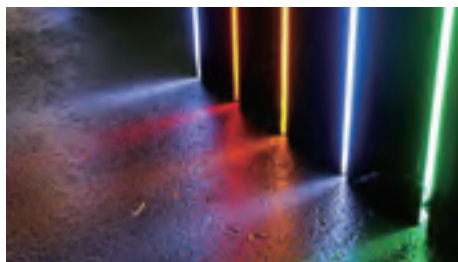


学内合同企業説明会

詳しくは [福井大学 就職](#)

灯りで心に感動を

■キャンパスイルミネーション



キャンパスイルミネーションは、平成21年冬に文京キャンパスで初めて開催され、翌年からは患者さんに優しい灯りを届けようと松岡キャンパスでも開催しています。学生の思い出に残る感動を与えるイルミネーションとなるよう、学生自らが企画し、毎年行灯やオブジェを用いた様々な技術・工夫を重ねた福井大学ならではの「ものづくり」としての取り組みが行われています。学校・商業施設などからのご依頼を受け、学生が主体となってイルミネーションやプロジェクションマッピングの企画・運営にも取り組んでいます。

詳しくは [福井大学 キャンパスイルミネーション](#)



教育研究者検索をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。

<http://www.u-fukui.ac.jp/>

所属組織・職名・氏名に加え、専門分野やキーワード検索もできます。ぜひご利用下さい。



●大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せ下さい。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号

HP <http://www.u-fukui.ac.jp/>

[福井大学](#)



発行 福井大学総合戦略部門経営戦略課
発行日 平成27年10月1日